

[徐福伝説めぐり]

1.秋田県 ⇒ 2.青森県 ⇒ 3.佐賀県 ⇒ 4.福岡県 ⇒ 5.鹿児島県 ⇒ 6.宮崎県 ⇒ 7.和歌山県新宮市 ⇒ 8.熊野古道
⇒ 9.京都府丹後半島伊根町 ⇒ 10.熊野から富士山 ⇒ 11. 最後に行き着いたところ、山梨県河口湖町～富士吉田市

③-1 秋田県の徐福伝説：



五社堂入り口前駐車場のなまはげ



赤神神社 五社堂入り口

秋田県男鹿市船川港本山門前字祓川 35

秋田県の男鹿半島に赤神神社があります。

景行天皇の時代、この地に中国の王朝前漢の皇帝である武帝（正式な諡号（しごう＝おくりな）は孝武皇帝）が天から降りてきたという伝説があります。

秋田の昔話では、武帝は5匹のコウモリとともに、白い鹿がひく飛車に乗って男鹿にやってきました。コウモリは鬼と化し、武帝の忠実な家来になりました。



赤鳥居 石塔の横に徐福塚

また、神社縁起の中に「日本武尊化して白鳥となり、漢の武帝を迎う。武帝は白馬に駕し、飛車に乗り、赤旗を建て、西王母と此の嶋に至る。」という記述があり、日本武尊の伝説とも関係があるようです。



徐福塚

徐福塚は五社堂の赤い鳥居近くにありました。実は、この塚は徐福塚復元実行委員会によって古図をもとに復元されたものです。実際に塚とされていた石は不明ですが、江戸時代の古図にはこの位置に記されています。

この古図を描いたのは江戸時代の管江真澄という人で、東北地方や北海道を歩いてその記録を残しました。

1754年に愛知県豊橋市で生まれた管江真澄は、1783年から旅に出ます。そして、各地に「管江真澄遊覧記」を残しています。東北地方では、新奥の細道として多くの名所旧跡にその足跡を紹介しています。



管江真澄の図 案内板より